

【事業報告書】

HKFA審判委員会 女子部

北の大地女子U-18サッカー大会



- 大会名 : 第1回北の大地女子U-18サッカー大会
- 日時 : 2022年8月4日(木)～7日(日)
- 場所 : 浜厚真野原グラウンド
- スタッフ : 蝦名 隆幸、大石かおり(サッカー2級審判インストラクター:女子部)
- 参加者 : 長浜 杏名、大村 美詞(2級審判員)
オホーツク地区ユース審判員1名(3級審判員)



長浜 杏名

北海道にしながら全国大会へ出場するチームの試合をできる貴重な機会を頂き大変勉強になりました。参加を見送ったチームがあったとのことで残念ではありましたが、**来年のインターハイへ向けた良い準備ができたように感じます**。今回のような機会が増え、北海道の女子サッカーの発展に繋がっていくことを期待しています。

大村 美詞

全国から集まってくるレベルの高い試合を経験することが出来てとても勉強になりました！初めて担当するチームがほとんどだったので、**ゴールに向けての展開の仕方や中心になる選手を一から探すことで試合中の動き方の引き出しが増えた気がします**。普段北海道では担当することが出来ない試合で、とても貴重な経験を頂きありがとうございました。とても楽しかったです！

オホーツク地区ユース審判員

女子の試合で主審を務めさせて頂くのは今回が初めての経験でした。全国レベルの試合という事で緊張や不安はありましたが、楽しく思い切って取り組むことが出来ました。また、今まで他の女性審判員の方々と関わる機会があまりなかったので、今回大村さんと長浜さんのレフェリーを見学させて頂き、**試合中はもちろんですが試合以外の場面での選手やチーム役員の方との関わり方も本当に素晴らしく、**学ばせていただく点が多くありました。自分自身の課題も多くありますが、今後の活動で確実に一つひとつクリアしていき、より良いレフェリングに努めていきたいです。また課題点を見つけるばかりではなく、**自分のストロングポイントにも気づき、そこを伸ばし上を目指していけるよう毎試合の反省や挑戦をこれからも続けていこうと思います**。今回は大変貴重な経験をさせて頂き、有難うございました。

5R ～一歩一歩着実に～





審判員の長浜杏名様、大村美詞様、オホーツク地区ユース審判員様、そして、インストラクターの大石様、蝦名様におかれましては、本フェスティバルの審判稼働にご協力いただきまして、ありがとうございました。参加チームの役員の方々から、**タフなプレーを促し、ストレスなく試合を運営いただいたこと**による感謝のお言葉を頂戴しました。私もレフェリングを見させていただき、そのレベルの高さに大変驚きました。

3名の方に共通していたこととして、

- ① シグナルがきれいで説得力がある
- ② 運動量が豊富で試合終盤まで全くスピードが落ちない
- ③ 監視すべきこと、行うべきことがしっかり整理されていて、スムーズな試合運営を行うことができる

と感じました。これらについては、3名の方の努力と向上心はもちろんのこと、インストラクターの方々の日頃からのご指導の賜物でもあると思います。私自身大変勉強になりました。また、何よりも感心したことは、**3名の審判員の方のアドバイスを吸収しようとする聴く姿勢と、それをすぐに実践してみるチャレンジ精神**です。おかげで、私の悪いクセが発動して、喋りすぎてたくさんの情報を伝えすぎてしまいました…。申し訳ありません…。

今まで女子審判員の普及・育成・強化に携わることがなかなかできなかったことは私の大きな反省点です。北海道のサッカーの発展に少しでも貢献できるように、みなさんと共に学び続けていきます。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

日本クラブユースサッカー選手権U-15



■大会名 : 第37回日本クラブユースサッカー選手権 (U-15) 大会

■日時 : 2022年8月15日 (月) ~24日 (水)

■場所 : 帯広の森球技場 他

■参加者 : 長浜 杏名 (2級審判員)

■試合	ラウンド3 2	ヴィッセル神戸U-15	—	フレスカ神戸	第四審
		セレッソ大阪U-15	—	ジェフユナイテッド千葉U-15	副審
	ラウンド1 6	F C東京U-15むさし	—	クラブ与野	副審

■参加者のコメント



初めてこの大会に参加しました。全国から集まった女子1級審判員や各地の強化指定審判員の方々と一緒に試合をすることは大変貴重な経験となりました。副審2試合を担当しましたが、U15とはいえスピードが速くパワーもある選手が多く、試合終了まで集中力を切らさず臨むことができたかと思います。

今回の経験を今後の審判活動に活かしていけるよう努力していきたいです。

全国研修報告

■大会名 : XF CUP 2022 第4回日本クラブユース女子サッカー大会 (U-18)

■参加者 : 2022年7月31日 (日) ~2日 (火) グループステージ
2022年8月 3日 (水) ~5日 (金) グループステージ・準々決勝

■場所 : 群馬県前橋市

大村 美詞 (2級審判員)

阿部 美季 (2級審判員)

アセッサー：鈴木武明氏

自己分析

反省は大きく分けて2つあった。一つ目はレフェリーサイドの深く入る位置へのコース取り。縦向きにボールが入った際に、私はタッチラインと並行に真っ直ぐ走り出してしまうことで、争点へ近づくタイミングが早すぎてしまい受け手の邪魔になってしまうということ、その後の動き出しが難しく巻き込まれてしまう事があった。二つ目はフリーキック時のポジショニング。ゴール前のペナルティーエリアに近い位置でフリーキックを行う際には、壁になる選手のハンドが見える位置を最優先に考える。蹴り出したタイミングで、アングルをつけてゴール前を見る（横の動き）。他に出的反省は、一つめにも関連するが最短距離を意識しすぎた直線的な動きが多いので、あえて遠回りをして広い視野を持ったアングルを意識する、カーブを描いた膨らんだ動きを心がけたい。

良かったところは、最後まで走り切れたことだ。北海道とは全く違うとても暑い気温や、とても朝早い試合時間でしたが途中でバテることなく自分の走力を出す事ができた。今回の研修は、自分の中で走力を強化することを意識していたので自分の力を出す事ができて嬉しかった。また、走り方、シグナルも綺麗に出す事ができた。試合後に映像を見返しても、シグナルははっきりとしていて、走り方もジョギングからステップを踏んでスプリントに移行するまでの動きがスムーズだった。これからも継続していきたい。

アセッサー：山岸佐知子氏

自己分析

この試合でも反省は大きく分けて2つあった。一つ目は、ゴール前のアングル。特に上半身のフウルを意識した位置取りを心がけるといことと、コーナーのニアボールも慌てずに内側に入ること、飛距離からポジションを考えるなどオートマチックにこなすこと、クロスが上がる瞬間にステップを踏み軌道によってはポジションを修正する、そして、これらの動きの中で常に意識しなければならないのが争点を見る瞬間に視野を遮る選手がいなかを考えるとことだ。事象と自分の間に人が入ってしまうと、クリアに見る事ができないため正確なジャッジができない可能性がある、また、判定に説得力がなくなってしまうと考えられる。二つ目は、型にはまりすぎずに動くということだ。対角線式審判法を意識しながらポジショニングを取るというのはもちろんだが、何を見たいのか、見るべきなのかということを考え直した位置取りを行いたい。型にはまらずくねくねと迂回するような動きをスネークという表現で教わった。また、予測する時は攻撃の選手がフリーの時に目を切って周りの情報を手に入れること、基本的には外から内に入る動きを心がけ、シチュエーションに合わせては斜めに入る動きも取り入れたい。

次に繋がる引き出しとして、アドバンテージについて教わった。後ろからのアフターだと、また、その事象が警告を伴う場合には？と考えた時、なんでもアドバンテージをかけるのではなく次の展開を見て、得点に繋がる縦へのパスなのか、ボールの状況を見て遅れても吹くということを入れたおきたい。また、今回は北海道では行うことの少ないクーリングブレイクがあった。その際のタイムマネジメントも、早くして準備を欲しい時には相手の行動を変える距離感で声をかけたり、どちらのベンチに先に声をかけるのか、言葉遣いなど、選手やスタッフとコミュニケーションを取るマネジメントは特に細かいところまでこだわっていききたい。

この試合での良かったところは、プレーに対する距離感はもちろん、ペナルティーエリア付近やレフェリーサイドの深い位置でも常に近い位置で見ることができていた事だ。ただ漠然と近い位置にいくのではなく、G KとF Wの接触や得点に絡むようなプレーなど、何が起きるのかを予測して、見る目的を持って動く事ができた。もう一つは、キックモーションに入った段階で動き出す事ができた事だ。受け手と出し手の位置を把握し、次の展開を早い段階で予測する事ができた。



研修を通して

今回は去年に引き続き、群馬県で行われたクラブユース女子の大会に参加させていただきました。**この1年間で積んできた経験をどれだけ発揮して、より良いレフェリングができるか**という気持ちで挑みましたが、自分の中では大きく成長できた一年だったと感じる事ができました。一番大きな変化だと思ったのは試合に臨む心構えです。今までは、選手のために頑張ろうと思いながらも全国の舞台に立つとどうしても緊張してしまい、「うまくいかなかったらどうしよう」という気持ちがありました。ですが今回は緊張よりも、**こんな大きな舞台で審判員としてピッチに立つ事ができる!**という気持ちの方が大きく、楽しみながら最後までやり抜く事ができました。

今回の研修でも全国大会という舞台で活躍する他地域の審判員の皆さんと交流する中で、たくさんの刺激をもらいました。今回の研修では改めて**審判員として活動する喜びや楽しさを再確認**する事ができました。これも日頃から審判員として活動する機会を設けてくださる地域や協会の方々のお陰です。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

阿部 美季

8/4

ソルフィオーレFC作陽 — ヴィアマテラス宮崎ソレイナ

主審

アセッサー：金崎良一氏

自己分析

今年は主審を担当する中でポジションに迷いが出てしまい、考えると足が止まってしまうことが多かったため、意識して動くとともに幅広く動いて角度や距離にも気をつけることを目標に臨んだ。試合中は全体を通してスローインの方法が気になった。正しい方法で再開されているか迷ってしまう時があった。オフサイドに対しては、Rサイドの展開の際に、争点を集中して見ていたことで、首を振る回数が減ってしまい結果的にオフサイドのフラッグアップにすぐ気づくことが出来なかった。後半は意識をしたことで、改善することが出来た。試合を通して走り出しの1歩を速くすることを意識することが出来た。ファウルの際の壁のコントロールからのRの立ち位置やコーナーキックの際の立ち位置で争点に対して角度が悪い時があったので改善していけたらいいなと思った。

8/5

スフィーダ世田谷FCユース — 三菱重工浦和レッズレディースユース

副審

アセッサー：松崎康弘氏

自己分析

前半でオフサイドが4本あったが、どのオフサイドも自信を持ってフラッグアップすることが出来た。主審の曾根さんともアイコンタクトをこまめに行い、オフサイドやタッチジャッジなどもスムーズに判断することが出来た。

研修を通して

まずは、再び全国研修に参加させていただく機会を頂きありがとうございました。全国研修はこれまでも沢山経験させて頂きましたが、今年の群馬県は40℃近い気温であると聞き、**これまで経験したことが無い環境で試合を行う事になると覚悟してトレーニングに励みました**。群馬県に到着した日は37℃ありましたが、試合のある2日は天気が悪いこともあり、30℃を超えず涼しい環境で試合を行うことが出来ました。今回は気温が高い中で試合を行うため試合中に熱中症で選手が体調不良になった場合の対応や雷が鳴った場合の対応などをしっかりと勉強し、何事も事前の情報収集がとても大切であると学ぶことが出来ました。

また、今年は自分の中でポジショニングが課題でしたが、**自分なりに考えながら一生懸命走ることと自信が持てた部分もありました**。担当のINSからも沢山のアドバイスを頂き、また嬉しいお言葉も頂くことが出来たので頑張っていきたいと思いました。

今回の研修では、参加した審判員のうち約半数の方がこれまでの全国研修でお会いした経験があり、再会することが出来てとても嬉しかったです。現在1級で活躍されている曾根未宇さんは高校生時代のユース研修の時からお世話になっているため、今回一緒に試合を担当することが出来たのも嬉しかったです。また、初めてお会いした審判員の方々と沢山話す機会があり、情報を共有したり、様々な内容を一緒に検討しあうことが出来たのも貴重な経験となりました。またお会いできるように頑張りたいと思いました。

今回の研修を通して、**自分の良いところや今後の課題となるところを知ることが出来た**ので、今後も成長していけるように頑張りたいと思います。女子1級を目指す中でまだまだ不安があったり未熟な部分も多いですが、1つずつクリアしていけたらと思っています。

改めて、全国研修という貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。今後ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。